

「みずかがみ」の作付には県が定める要件があります。
【生産者の要件】・環境こだわり農産物の生産計画認定を受けること。
・県が策定する栽培基準に沿って栽培すること。
・全量種子更新し、自家採取は行わないこと。
上記以外にも要件があり、全てを満たす必要があります。
施用日、施肥量等につきましては、JAにお問い合わせください。

「みずかがみ」栽培こよみ

大津・南部農業農村振興事務所 農産普及課監修
高島農業農村振興事務所 農産普及課監修

施肥設計

①. 普通田（分施栽培）* 施用日は目安

肥 料 名	全 量	土づくり	基 肥	穂肥 出穂 25日前
とれ太郎 ケイ酸30-アルカリ40	80kg	80kg		
UF入り有機化成355早生用 N13-P5-K5	60kg		60kg	
ハーフUF355基肥 N13-P5-K5	30kg		30kg	
ハーフUF306穂肥 N13-P0-K6	30kg			30kg
ハーフゆうき N10-P6-K10	70kg		40kg	30kg

「みずかがみ」の作付けには、別途申し込みが必要です。 ★カントリーの取扱いは、各営農経済センターにお問い合わせください。

「高品質・良食味米生産の栽培ポイント」

①移植は、茎数不足にならないように基準の栽植密度より粗くしない。
（湖辺：60株/坪・湖辺砂質、平坦：60～70株/坪、中山間：70株/坪）
②基肥と穂肥は基準量を目安に施用する。また、穂肥は出穂25日前（幼穂長1mm）に確実に施用する。
③出穂期・成熟期ともに「コシヒカリ」「キヌヒカリ」より早いため、適期を逃さずに穂肥施肥、防除、収穫を実施する。

「収量・品質の目標」

○収量540kg/10a（粒厚1.85以上）
○整粒歩合80%以上（1等米は70%以上）

「特性概要」

項 目	みずかがみ	コシヒカリ
出 穂 期	7月22日	7月27日
成 熟 期	8月25日	8月28日
稈 長	88cm	98cm
穂数(/㎡)	394本	398本

*移植基準日5/10（農業技術振興センター）

「収量構成要素の目安」

項 目	目 安	項 目	目 安
穂数/㎡	360本	登熟歩合	85%
一穂粒数	85粒	玄米千粒重	21.0g
粒数/㎡	30,600粒		

※全量基肥施肥の場合は、基肥に穂肥を加えた値を上限とする。
※滋賀環境こだわり農産物（水稻）は、化学成分由来チッソ成分量が生育期間中、4kg/10aまでとなっている。
※上表を基準とし、地力に応じて加減する。
※大豆跡は上記基準の半量を上限とする。
※猛暑年における高温対策については14,15ページをご参照ください。

無効分げつ

中干し開始：290本/㎡
(60株植：16本/株)
(70株植：14本/株)

幼穂形成期：450本/㎡
(60株植：25本/株)
(70株植：21本/株)

成熟期：360本/㎡
(60株植：20本/株)
(70株植：17本/株)

月	3 月		4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
生育ステージ	育苗期 移植期 活着期 有効分げつ期 無効分げつ期 幼穂形成期 穂ばらみ期 出穂期 登熟期 成熟期																			
主 な 作 業	育苗準備 播 種 育 苗 基 肥 耕 転 代 田 除 草 剤 溝 切 り 中 干 し 穂 肥 6月下旬 間断灌がい 常時湛水 間断灌がい 病 害 虫 防 除 病 害 虫 防 除 収 穫 8月下旬 乾 調 燥 製																			
栽培のポイント	◎倒伏防止と良食味を目指すため 基本技術を励行しましょう。 ◎土づくりと水管理により、根の 活力を維持しましょう。 ◎収量は、登熟歩合の向上と玄米 の充実で確保しましょう。																			